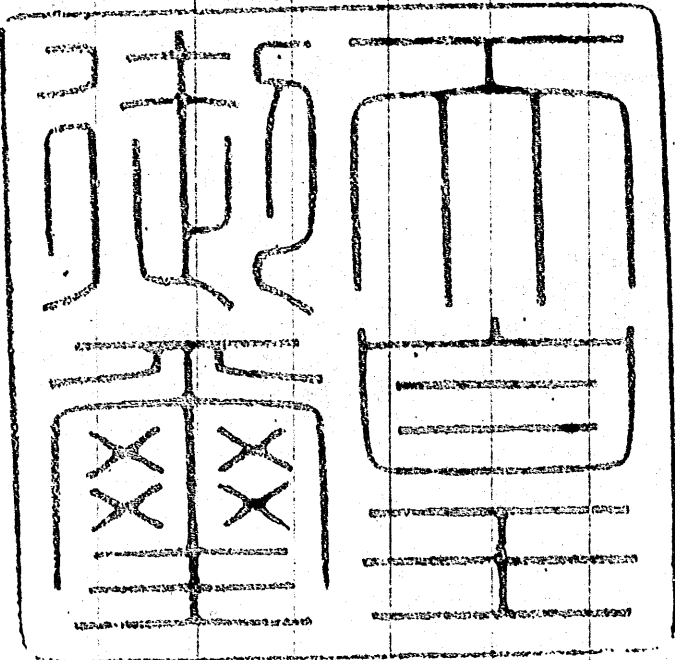


法律第五十二号

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方鐵道法
ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

吉岡 仁



大正八年四月九日

内閣總理大臣 奏

法律第五十二號

地方鐵道法

第一條 本法ハ軌道條例ニ規定スルモノヲ除ク、外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セザル場合ト雖本法ヲ適用ス

道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ

専用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ
政府ノ鐵道又ハ地方鐵道ニ接續スル
モノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ
定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ
他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲ス
コトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋ト
ス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半
又ハ二呎六吋ト爲スコトヲ得

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設ス
ルコトヲ得ス但シ已ムコトヲ得サル場合
ニ於テ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルト
キハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回
拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコ
トヲ得但シ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷
設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込
前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ

延長又ハ改良ノ費用ニ充ツル爲其ノ
資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會
社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵
道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第七條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認
可ヲ受クルニ非サレハ社債ヲ募集ス
ルコトヲ得ス
社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込
リタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコ
トヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ
額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコ
トヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場
合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セ
ス
第八條 鐵道及其ノ附屬物件ハ鐵道抵
當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲
スコトヲ得ス
鐵道ノ附屬物件ハ命令ノ定ムル所ニ
依リ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サ

レハ之ヲ貸渡又ハ讓渡スルコトヲ得
ス

第九條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認
可ヲ受クルニ非サレハ他ノ事業ヲ營
ムコトヲ得ス

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認
可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコ
トヲ得ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ
テ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消

滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義
務ヲ承繼ス

第十一條 免許許可又ハ認可ニハ條件
ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營マムトスル
者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大
臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘ

キ期限ヲ附ス

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書

類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施

行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起

人ナルトキハ定款及會社ノ設立

登記謄本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ着手及竣

功ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其

ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合

ニ限リ第十二條第二項又ハ前條第二

項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限

ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲ケル土地ヲ以テ鐵道

用地トス

一 線路用地

二 停車場信號所車庫及貨物庫等ノ

建設ニ要スル土地

三 鐵道專用ニ供スル發電所變電所

及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル

鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職

務ニ従事スル鐵道係員ノ駐在所

等ノ建設ニ要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛器具機械ヲ修

理製作スル工場及其ノ資材器具

機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ

要スル土地

第十六條 道路橋梁河川運河及溝渠等

ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ

許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケ

タル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ

之ヲ横斷シテ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ

又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ
横斷シテ道路橋梁、河川、運
河及溝渠等ヲ造設スルトキ
ハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ム
コトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ公益上必
要アリト認ムルトキハ主務
大臣ハ地方鐵道業者ニ
設備ノ共用又ハ變更ヲ命
スルコトヲ得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ
負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ
因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ
許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬
スル權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコト
ヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其
ノ效力ヲ失フ
一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期

限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ
二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ
三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事
着手ノ期限迄ニ工事ニ着手セサ
ルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ
免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ
相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承
繼スルコトヲ得

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ

認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始
スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷
物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ
定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ
監督官廳ハ公益上必要アリト認ムル
トキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコ
トヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車
及混合列車ノ發着時刻及度數ヲ定メ

監督官廳ノ認可ヲ受クハシ
監督官廳ハ公益上必要アリト認ムル
トキハ列車ノ發着時刻及度数ノ變更
ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ハ監査員ヲ派遣
シテ鐵道ノ工事運輸保線ノ状態會計
及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ
得

鐵道ノ工事運輸保線ノ状態及會計ノ
整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス

命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムル
モノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改築
又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合
ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ
工事運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命ス
ルコトヲ得

監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員
若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃帳簿書
類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道

ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ノ發行スル證票ヲ攜帶スル者ヲ無賃ニテ乘車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更運輸ノ手續運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因

リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ賃借又ハ營業若ハ運輸ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス

營業又ハ運輸ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣

ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業
ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止ス
ルコトヲ得ス

地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大
臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ効
力ヲ生ゼス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會
計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ
設クルコトヲ得

第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定

ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道
ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ
地方鐵道ノ全部又ハ一部及其ノ附屬
物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵
道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

地方鐵道ノ一部買收セラレタル爲殘
存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト
能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道
業者ハ該線路及其ノ附屬物件ノ買收

附
錄

ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 買收價格ハ最近ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル建設費ニ乘シタル額ヲ二十倍シタル金額トス
前項ノ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル每營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ

以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ
營業收入及營業費ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 買收ノ日ニ於テ運輸開始後前條第一項ニ規定スル三年ヲ經過シタル線路ヲ有セサル場合又ハ前條第一項ノ金額ヲ建設費ニ達セサル場合ニ於テハ其ノ建設費以内ニ於テ協

定シタル金額ヲ以テ買收價格トス

第三十三條 地方鐵道業者カ鐵道若ハ

其ノ附屬物件ノ補習ヲ爲サス又ハ法

令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リ

改築若ハ改造ヲ爲スヘキ場合ニ於テ

之ヲ爲ササルトキハ補習ニ要スル金

額ハ之ヲ營業費ニ加算シ改築又ハ改

造ニ要スル金額ハ之ヲ買收價格ヨリ

控除ス

第三十四條 買收ヲ受クヘキ地方鐵道

業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ

兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スル

コトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價格ハ協定ニ

依ル

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依

リ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付

ス此ノ場合ニ於テ五十圓未滿ノ端數

ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十六條 政府ニ於テ地方鐵道ニ接

近シ又ハ竝行ニテ鐵道ヲ敷設シタル
爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ竝
行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能
ハサルニ至リタルトギハ政府ハ其ノ
營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償
スルコトヲ得殘存線路ノミニニ付營業
ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタル
トキ亦同シ

補償金額ハ第三十一條乃至第三十三
條ノ規定ニ依リテ算出シタル價格ヨ

リ殘存物件ノ價格ヲ控除シタル金額
以內ニ以テ政府之ヲ定ム

第三十七條 地方鐵道業者カ法令若ハ
法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許許可
若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其
ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルト
キハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコト
ヲ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スル
コト

二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲミテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サレムルコト
三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消ス
ト
前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルルコトヲ得ス

第三十八條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵

道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲

シタルトキ

二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ
 免許許可若ハ認可ニ附シタル條
 件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反
 シタルトキ
 三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタル
 トキ
 四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令
 ニ依リテ爲スハキ届出報告其ノ
 他ノ書類圖面ノ提出若ハ調製ヲ
 怠リ又ハ虚偽ノ届出報告若ハ記

載ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃第二百
 八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用
 ス

第四十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ
 地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セ
 ス

附則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ
 以テ之ヲ定ム

第四十二條 私設鐵道法及輕便鐵道法
ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定
許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタ
ル免許許可又ハ認可ト看做ス但シ其
ノ免許若ハ指定許可又ハ認可ニ附シ
タル條件ニシテ本法ニ牴觸スルモノ
ハ其ノ効力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リ
テ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之

ヲ適用セス

第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便
鐵道抵當原簿ニ登録セラレタル事項
ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原
簿ニ登録セラレタルモノト看做シ輕
便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看
做ス

第四十四條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シ
タル處分手續其ノ他ノ行爲ハ本法中
之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ

承法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看
做ス